

横浜について

横浜は、ペリーが艦隊をひきいて1853年浦賀に入港して「安政の眠りを覚ます蒸気船たった4杯で夜も眠れず」と歌われた6年後の安政6年(1859年)に開港した。百戸たらずの小さな漁村が一躍日本を代表する国際港となったのは、世界でもめずらしい。その時以来、横浜は西洋の文化の入り口となった。横浜は物の始まりがやたらと多い。電信、ガス燈、鉄道、そしてテニス、洋式公園、競馬、ペンキにクリーニング、西洋瓦、機械製氷、ビールにアイスクリームもそうだ。牛鍋屋が出来て日本人が牛肉を食べはじめた。明治27年(1894年)横浜港の大棧橋から日本郵船の土佐丸がわが国初の欧州航路の客船として船出した。横浜は海外への表玄関だった。フランス料理が日本郵船のコックさんによって横浜から全国にひろがっていった。西洋料理は横浜から生まれたと言える。中華街は昔し、横浜港の荷役やカンカン虫の労働者が朝飯しに食べる粥を中国人が作ったことから発展していった。古くから横浜に住む人は中華街を南京町とよんでいた。

横浜は明治、大正、昭和初期の時代にできた建物が震災、戦災にあつたにもかかわらず多く残っている。威風堂々とした県庁、税関、開港記念会館、港教会、領事館、レンガ倉庫などである。山下公園は震災で焼けた瓦礫を埋めたててつくられ、グランドホテルはこの際に建改えられてニューグランドホテルとなった。山手の外人墓地、横浜公園、33間道路、元町、伊勢佐木町、三溪園など古くから横浜に住む人々にとっては、懐かしく、心なごますものである。横浜は戦前、生糸と雑貨玩具で栄え生糸商、貿易商が多くいて賑わっていた。元町には、高級宝石店、高級家具店、帽子屋などがあり、辨天通りにはスーベニール屋があり、山手には、ライジングサン、ロイヤルダッチ、シエルなどの西洋人がいて日曜日ともなると、ベビーフォードに乗りさっそうと買い物におりてくる。ターバンを巻いた羅紗売りのインド人、ロシアからロシア革命をのがれて亡命してきたおばあさんが、きれいに白粉を塗り、胸にじゃらじゃら首飾りをかけて人力車で関東病院に通う、南京町では路地で床屋をしており、そのそばで辮髪をしたおじいさんが丸椅子に座つて長いキセルで煙草を吸っている。黒い支那服を着たおばあさんが纏足の足で危なげによちよちと行く。・・・

戦後の横浜は焼け野原に進駐軍のかまぼこ兵舎がたちならび、山下公園、横浜公園も接收され、あれほど賑わった伊勢佐木町も見る影を失い、野毛の闇市へと中心が移って行ってしまった。しかし、ここ数年の横浜みなとみらい21開発の進展により、ランドマークタワー、横浜美術館、クィンズスクエア、コスモワールド、パシヒコ横浜、横浜ワールドポーターズとあらたな区域が構築されモダンでハイカラな新しい横浜が生まれ変わろうとしている。

横浜の概要

1. 面積 437.70Km²
2. 人口 375万人 政令指定都市の一つであり、総人口は、日本の市町村では最も多いこの人口は四国地方に匹敵し、1府37県を上回る。
3. 区 青葉区、旭区、泉区、磯子区、神奈川区、金沢区、港南区、港北区、栄区、瀬谷区、都筑区、鶴見区、戸塚区、中区、西区、保土ヶ谷区、緑区、南区の18の区からなる。
4. 市の花 バラ
5. 市の木 イチヨウ、ケヤキ、サザンカ、サンゴジュ
6. 市歌 1909年（明治42年）7月1日、横浜港の開港50周年祝祭で歌はれ、以後歌い継がれている。作詞 森 林太郎、作曲 南 能衛。開港記念日は現在6月2日

わが日の本は島国よ
朝日かがよう海に
連なりそばだつ島々なれば
あらゆる国より船こそ通え
されば港の数多かれど
この横浜にまさるあらめや
むかし思えばとまやの煙
ちらりほらりと立りしところ
今はもも船ももち船
とまるところぞ見よや
果てなく栄て行くらん御世を
飾る宝も入りくる港